

2021年
教室だより
1月号



公文式
本市場教室・横割教室
ゆきこくもん 検索
<http://www.yukiko-kumon.com>

公文式本市場教室 火3時~7時 木2時30分~6時30分
TEL 61-4936(上平方)
横割教室 月・水3時~7時 携帯090-2260-0671
Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com
携帯FAX:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp
指導者:新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

【目標はプラス思考で】

年の瀬を迎え、1年をふり返って、来年は〇〇をするぞ〜と、早くも期待に胸をふくらませているご家族もいらっしゃることでしょう。
脳科学では私たちの脳は、マイナスに弱く、プラスには強く、「△△をしない」という目標よりは、「〇〇をする」という目標のほうが、断然達成する度合いが高いそうです。そして、例えば単に「本をたくさん読む」という目標よりも、「1日〇ページ読む」または「月に〇冊読む」と具体的なほうが、達成しやすくなるとのこと。目標を立てると、脳はその達成のために様々な情報を収集できるようにアンテナを立ててくれ、達成した時のイメージが具体的であればあるほど、より強く情報をキャッチするようになるそうですから驚きです。新年のゆっくりできる時に、自分のしたいことに想像力をおおいに働かせてみるのもいいですね。今年、お子さまにとってどのような1年だったでしょうか。みなさま、どうぞよいお年をお迎えください。

公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

“本好きにするには、まず読み聞かせから”

本好き、読書好きの子どもを育てるには読み聞かせから始めます。
絵本や童話を読んでもらうたびに、その本の内容をすでに知り、ほとんど暗記していても、子どもたちは何回でも「読んで」とせがみます。そうして、初めて読んでもらう本でも、次はどうなるのかなと、先の展開を予想する楽しみを知るようになります。そして読書が好きになった子どもは自分で考える姿勢も身につけていきます。本の中には、豊かな言葉とともに、子どもたちが生きていくために必要な知識や情報がたくさんつまっています。読書する力が身につけば、その本の内容を手がかりとしながら自ら考え、物事の本質を洞察する力、周囲の状況を考慮しながら自分の進むべき道を判断する能力が養われます。
そうなれば先々の勉強に役立つことはもちろんのことですが、それ以上に人間性が豊かになり、ゆるぎない人生観のもと、社会に役立つ人間として、充実した人生を送ることも可能になります。
そのためにこそ、少しでも早い時期に本に親しんでほしい、と公文式は考えています。

保護者様へお願い。

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。
1月分の会費引き落としは12月28日（月）です。よろしくお願ひいたします。
(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までに申し出下さい。
教室からご家庭に連絡される生徒さんの場合は固定電話・指導者携帯電話・メール等はいずれも10円納入願ひます。
*学習終了後、学校の宿題をやってもかまいませんが、おしゃべりしたり、だらだらやる子は、即退出してもらいます。ご了承ください。
コロナ禍で密を避け、ソーシャルディスタンスさせていますことご了承ください。

本市場教室日□
横割教室日△

January 1 2021						
日	月	火	水	木	金	土
					1 超	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11 休会	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

教室でのお願い

教室へ来る前に家で体温を測りましょう！体温が 37.5℃以下なら大丈夫です。体温がそれ以上の人は公文をお休みして在宅学習をお願いします。教室へ入るときは、必ず「マスク」をしてください。ない人は申し出ていただければマスクを差し上げます。

様

*ゆき子の一言コラム

英語にLet's Try

小学3、4年生で英語（外国語活動）の授業が。外国語活動は現在、小学5と小学6が習っていますが、2020年度から始まる新たな学習指導要領では小学3、小学4に前倒しされ、小学5からは英語（外国語）が教科として数えられます。

KUMONなら

「聞くのが楽しい!」「英語を言えて嬉しい!」というステップからはじめます
E-Pencilを使って、まずは身近な単語のイラストを見て、発音を聞くところからはじめます。
この教材のE-Pencilの音を聞いてまねすることで
英語特有のリズムが自然と身につきます。

「音楽やリズム」で楽しく学べる教材を使っていますので楽しく学べます。
ネイティブの正しい発音を聞いてまねすることで自然と聞き取る能力が上がります。
イラストを見ながら一緒に発音したり、うたったり・・自然と楽しく英語の世界に親しめます。
教材は明るくわかりやすいイラストで、小さなお子さまでも取り組みやすいように設計されています。
日常的な表現を通して、わかる英語を増やしていきます。

ただ、はっきり言わせてもらえば、やはり私たちの言葉「日本語」をおろそかにしてはいけません。
日本語＝国語は ひらがなから始まり、カタカナそして漢字と大変な母国語ですが、最近の低学年は（高学年でもいいますが）漢字の「とめ」、「はね」もろくにできない子が多くいます。昔は習字の時間でよく修正されたものですが・・・。今の先生が忙しいのか面倒なのか解りませんが、公文書写もやってた私には歯がゆい思いでいっぱいです。よく国語力と言われ学力低下の議論が活発化していますが、その中でも、読解力が低いと指摘されています。学力低下の議論は、1999年の春頃からスタートしています。当初指摘されたのは「分数のできない大学生」に象徴される理数系の学力低下でした。確かに、正誤がはっきりする理数系の学力低下は明白だったわけですが、教員の多くは、それ以上に国語力の低下の方が深刻だと、痛感し続けていたと思います。なぜなら、かつての学生が参考図書として十分に読みこなしてきたレベルの本を、今の学生は読めなくなっているからです。新書程度の本が読めないどころか、活字が並んだ本を開いただけで、うんざりした顔をする学生すらいます。なぜそうなってしまったのか。今の学生が使用してきた教科書は、フルカラーで挿絵がいっぱい。活字は極力少なめになっています。教科書会社が、世の中の活字離れに迎合しているうちに、どんどん読めない学生が増えてしまいました。参考書も、私たちが中高生の頃は解説型の参考書を使って、自分で下線を引いて読んだものですが、今の参考書は、重要事項ははっきり分かるようにカラフルに書いてあります。活字をきちんと読みこなす勉強に耐えられない学生が増え、必然的に大学の授業で使うレベルの本は全く読みこなせなくなっているのです。一方で、書く力についても、小論文が課される大学の受験生は、相応の力が備わっているかもしれませんが、全体的に見ると大幅に低下しており、しっかりしたレポートを書けない学生が増えていると感じています。

社会全体の活字離れと国語以外できちんと教科書を使わないことが要因——読む力、書く力の両方が低下したのは、初等中等教育の「ゆとり教育」が要因なのでしょうか。けれども私は、国語力低下は、それ以外の要因が大きいと考えています。最大の要因は社会全体の活字離れであり、子どもたちも活字に触れる機会が少なくなっていることが一因でしょう。

もちろん、学校側にも責任はあります。私は国語の授業内容が変質していると感じています。90年代、小中学校の国語教育は、それまでの「読む・書く」を重視しすぎた教育への反省から、「話す・聞く」教育へと大きく転換しました。しかし、「話す・聞く」を重視するあまり、「読む・書く」がおろそかになってしまった。しかも、「話す・聞く」教育で取り上げられるのは、電話の応対など日常生活の場面がほとんどです。果たして学校教育で扱うべきことなのかと、疑問を感じざるを得ません。本来は、「読む・書く」と「話す・聞く」を並列に扱い、例えば、さまざまな意見を聞いた上でそれを批判的に検討し、賛否両論を踏まえて、自分の意見を書きます。まさに討論型の能力を鍛えられるような授業が可能だったはずですが、残念ながらそうではなかったのです。これからの国語教育は、やはり説明文、論説文を書くトレーニングです。例えば小学校なら、自分の知っているトランプゲームの説明文を書かせて、皆で『ゲーム百科』を作るのもいいかもしれません。ゲームのやり方を人に説明するのは、意外に難しく、いいトレーニングになると思います。重要なのは、そうしたことを子どもたちに任せっぱなしにするのではなく、よい説明、分かりやすい説明とはどのようなものか、原理原則を教えた上で、書かせることです。その点が、これまでの国語教育には欠落していた観があります。